

蜷川順子（関西大学教授）編

油彩への衝動

本体価格七、五〇〇円＋税

A5判上製カバー装

カラー口絵三二頁 本文三三六頁

挿図二二点

ISBN 978-4-8055-0746-9

その《発明》以来、古今東西の画家たちを衝き動かしてきた
油彩画はいかに発展し、今後どのような道を辿るのか？

目次

まえがき／凡例

第一章 油彩の登場と展開

- 一― ヤン・ファン・エイクと油彩の「発明」
- 一― ウルビーノ宮廷の芸術活動と
フランドル絵画の関係
- 一― レンブラントの後期版画作品

第二章 油彩の新地平

- 二― 一九世紀フランスにおける
戸外制作の油彩画技法
- 二― ミュシャの油彩画制作過渡期における
連続性について

第三章 アジアでの展開

- 三― フィリピンにおけるコロニアル絵画の変遷
- 三― 朝鮮における「西洋画」の受容

第四章 日本での展開

- 四― 油彩画の魅惑
- 四― 油彩に「日本」を加える
- 四― せめぎ合うエロティシズム

第五章 油彩からの撤退／忌避

- 五― 油彩からの撤退
- 五― 行為としての油絵
- 五― 「コラム」油彩研究の現代的意義
- あとがき／著者紹介
- 図版出典一覧／人名索引

油彩画の技法のみならず、それをめぐる言説や文化などといったあらゆる領域を横断する、第一線の研究者らによる美術史試論の集積。

編者略歴

蜷川 順子 (にながわ じゅんこ)

京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。オランダ政府給費留学生としてフロンゲン大学に留学。近畿大学助教授などを経て、2001 年より関西大学勤務。現在文学部教授。博士 (ヘント大学、ベルギー)。翻訳書に『アーウィン・パノフスキー「初期ネーデルラント絵画——その起源と性格」』(共訳、中央公論美術出版、2001 年)、『アロイス・リーグル「ローマにおけるバロック芸術の成立」』(中央公論美術出版、2009 年) など。

執筆者一覧 (50 音順)

池上裕子 (神戸大学)
江藤 匠 (東洋大学)
岡 泰正 (神戸市立小磯記念美術館)
加須屋明子 (京都市立芸術大学)
アンシア・カレン (ノッティンガム大学)
新谷式子 (兵庫県立美術館)
辻 成史 (大阪大学)
並木誠士 (京都工芸繊維大学)
朴 美蓮 (同志社大学大学院)
林 洋子 (文化庁)
パトリック・D・フローレス
(フィリピン大学)
マクシミリアーン・P・J・マルテンス
(ヘント大学)
吉田暁子 (福岡市美術館)
米村典子 (九州大学)

〈組見本〉



お取り扱いは

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1 IVY ビル 6F
TEL 03-5577-4797 FAX 03-5577-4798
HP <http://www.chukobi.co.jp/>